

2021年1月～3月期

# ひびしん中小企業景気動向調査結果

この景況レポートは、当金庫のお取引先企業に対し、四半期ごとに実施する「中小企業景気動向調査」の結果をまとめたものです。

## この調査について

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 調査の目的 | 当金庫取引先の動向把握と取引先に対する経営情報の提供  |
| 2. 調査の時期 | 2021年3月1日～5日  |
| 3. 調査方法  | 調査員による聞き取り調査またはご回答企業による直接記入法  |
| 4. 調査対象  | 福岡ひびき信用金庫取引先 264企業<br>回答 264企業 回答率 100.0%   |
| 5. 分析方法  | D I (Diffusion Index) を中心に分析<br>D I とは、各調査項目に対してプラス傾向（増加・上昇）の回答割合からマイナス傾向（減少・下降）の回答割合を差し引いたもので、基本的には変化の方向を表します。△はマイナスの表示です。 |

## 調査対象企業

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	合計	回答率%
調査対象企業数	61	33	55	36	48	31	264	100.0
回答企業	61	33	55	36	48	31	264	

## 1. 概況

### ～業況はやや改善。売上額、収益は下降～

今期（2021年1～3月期）の業況は、製造業、建設業、不動産業に牽引され、全体では△25.4（前期比+6.9ポイント）とやや改善した。売上等の価格の動きでは前回調査期間（2020年10～12月）にコロナ禍が一時的に落ち着いていたことと年末の季節要因があった反動からか、売上額は△19.7（前期比△9.1ポイント）、収益は△18.9（前期比△7.2ポイント）と悪化。来期予想業況は、来期はワクチン接種が高齢者対象に開始されるなど明るい兆しもあり、業況は△20.8（今期比+4.6ポイント）とやや改善傾向を示すも、本格的な回復には時間を要するとの判断から依然として厳しい見方が優勢。

### 景況天気図

・前期：2020年10～12月期 ・今期：2021年1～3月期 ・見通し：2021年4～6月期

良い ← → 悪い

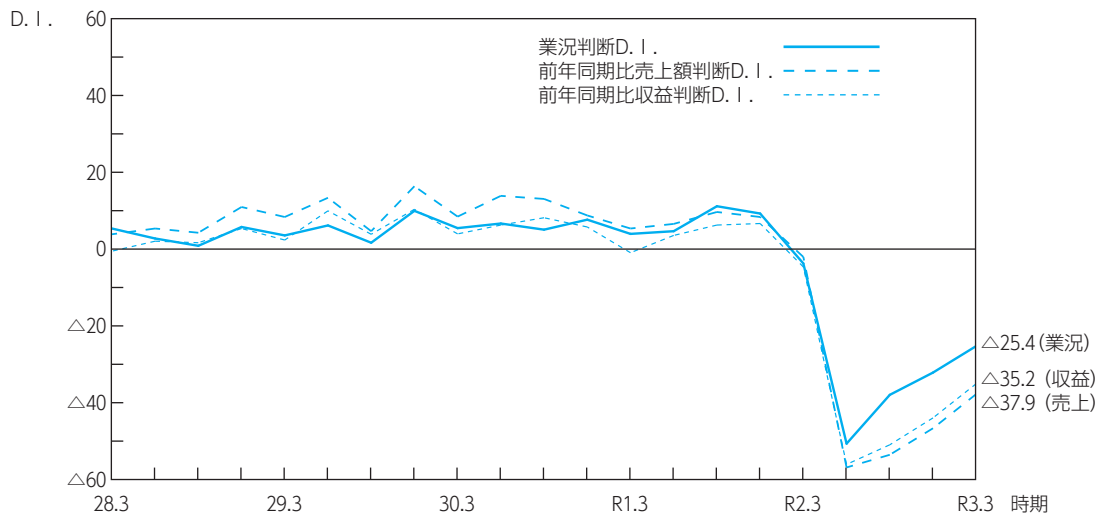
	総合	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
前期							
今期							
見通し							

（この天気図は調査結果から総合的に判断して作成しました）

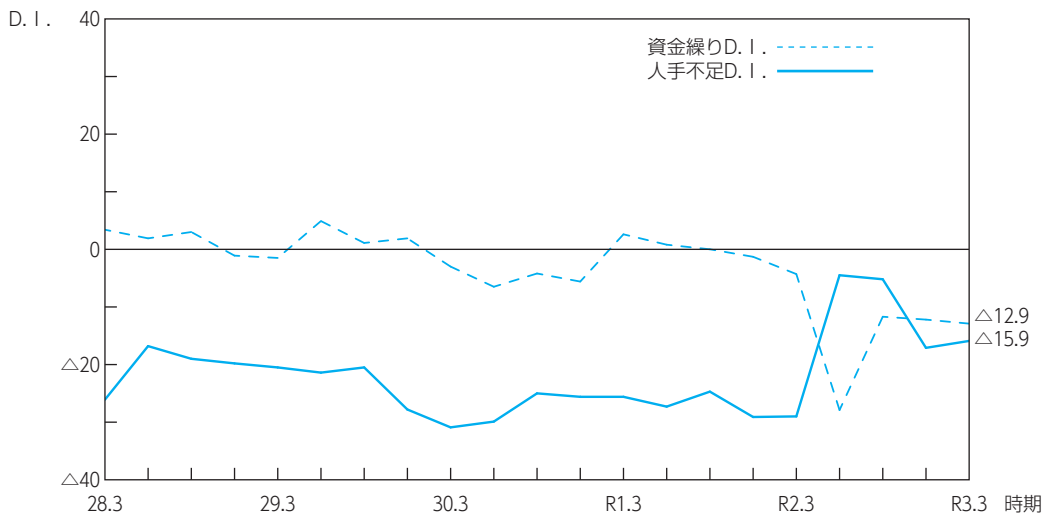
〈主要判断D.I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年 同期実績
イ 業 況		-3.9	-32.3	-25.4	6.9	-20.8	-21.5
□ 売上・収益・ 価格の動き (前期比)	売上額	-4.8	-10.6	-19.7	-9.1	-14.8	-14.9
	収 益	-6.5	-11.8	-18.9	-7.2	-17.4	-12.4
	販売価格	2.2	0.0	-3.0	-3.0	-2.7	-5.2
	資金繰り	-4.3	-12.2	-12.9	-0.7	-10.6	-8.5
ハ 昨年同時期と の比較	売上額	-2.2	-46.8	-37.9	8.9		-35.7
	収 益	-4.8	-44.1	-35.2	8.9		-30.5
ニ 雇用面の動き	人手不足	-29.0	-17.1	-15.9	1.2	-16.0	13.1

〈主要判断D.I.の推移〉



〈資金繰りD.I.・人手不足D.I.の推移〉



## 2. 業種別業況

### 製造業

～業況は前年同月に近い水準に回復～

販売納入先 割合 (%)	① 問屋・商社 6.6	② 大メーカー 29.5	③ 中小メーカー 45.9	④ 小売業者 11.5	⑤ 最終需要家 6.6
-----------------	-------------	--------------	---------------	-------------	-------------

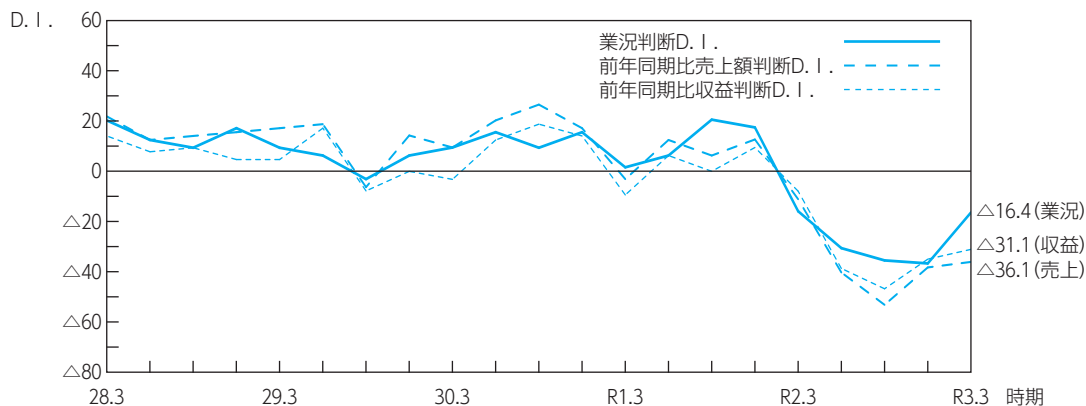
輸出について 割合 (%)	① 輸出主力 6.6	② 内需主力 93.4
------------------	------------	-------------

業況は△16.4（前期比+20.3ポイント）と、コロナ禍以前の前年同月（△15.9）に近い水準に改善。売上・収益・価格の動きでは売上額△16.4（前期比△1.4ポイント）、収益△21.3（△1.3ポイント）と大半の項目で小幅低下したが、受注残△9.8（前期比+10.2ポイント）、資金繰り△8.2（前期比+8.5ポイント）が改善しており業況の回復につながっている。

#### 〈主要判断D.I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年 同期実績
イ 業 況		-15.9	-36.7	-16.4	20.3	-14.8	-0.5
ロ 売上・収益・ 価格の動き	売上額	-1.6	-15.0	-16.4	-1.4	-8.2	-14.8
	受注残	-6.3	-20.0	-9.8	10.2	-8.2	-3.5
	収 益	0.0	-20.0	-21.3	-1.3	-16.4	-21.3
	販売価格	-1.6	0.0	-1.6	-1.6	-3.3	-0.1
	原材料価格	4.8	5.0	1.6	-3.4	-1.6	-3.1
	原材料在庫	-1.6	5.0	0.0	-5.0	-3.3	1.6
	資金繰り	-7.9	-16.7	-8.2	8.5	-9.8	-0.3
ハ 昨年同時期と の比較	売上額	-11.1	-38.3	-36.1	2.3		-25.0
	収 益	-7.9	-35.0	-31.1	3.9		-23.2
ニ 雇用面の動き	残業時間	-11.1	-26.7	-23.0	3.7	-29.5	-11.8
	人 手	-28.6	-16.7	-13.1	3.6	-14.8	15.5

#### 〈製造業主要判断D.I.の推移〉



## 卸売業

～業況、売上額、収益さらに下降～

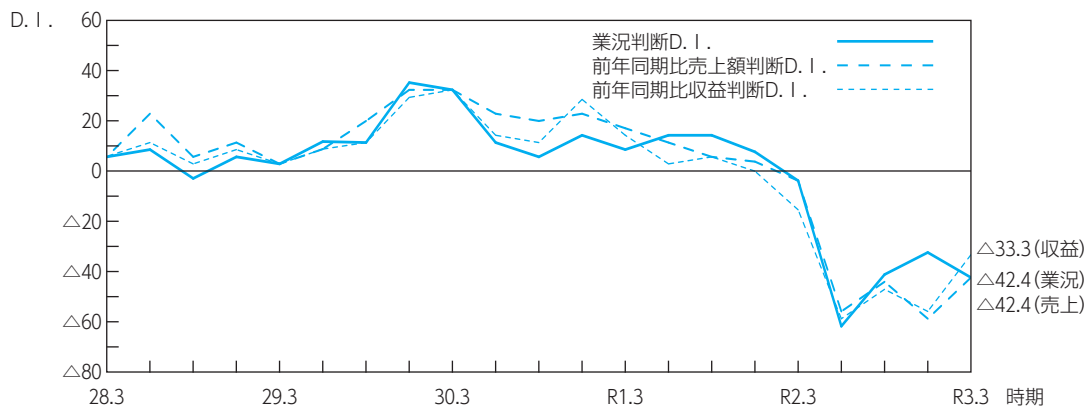
販売納入先 割合 (%)	① 問屋・商社 15.2	② 大メーカー 12.1	③ 中小メーカー 39.4	④ 小売業者 33.3
-----------------	--------------	--------------	---------------	-------------

業況は△42.4（前期比△10.1ポイント）と低下。販売価格の動きは△3.0（前期比△0.1ポイント）に対し仕入価格は6.1（前期比+9.0ポイント）との厳しい収益環境を反映し、売上額△27.3（前期比△30.2ポイント）、収益△27.3（前期比△33.2ポイント）とマイナスに転じている。来期予想業況は△27.3（今期比+15.1ポイント）と改善傾向を示すが、依然厳しい見通し。

### 〈主要判断D.I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年 同期実績
イ 業 況		-3.8	-32.4	-42.4	-10.1	-27.3	-38.6
ロ 売上・収益・ 価格の動き	売上額	-19.2	2.9	-27.3	-30.2	-21.2	-8.0
	収 益	-26.9	5.9	-27.3	-33.2	-21.2	-0.3
	販売価格	0.0	-2.9	-3.0	-0.1	-3.0	-3.0
	仕入価格	7.7	-2.9	6.1	9.0	-3.0	-1.6
	在 庫	7.7	2.9	0.0	-2.9	3.0	-7.7
	資金繰り	7.7	-14.7	-12.1	2.6	-9.1	-19.8
ハ 昨年同時期と の比較	売上額	-3.8	-58.8	-42.4	16.4		-38.6
	収 益	-15.4	-55.9	-33.3	22.5		-17.9
	販売価格	-7.7	-5.9	-3.0	2.9		4.7
ニ 雇用面の動き	残業時間	-3.8	-26.5	-24.2	2.2	-24.2	-20.4
	人 手	-19.2	-14.7	-12.1	2.6	-12.1	7.1

### 〈卸売業主要判断D.I.の推移〉



# 小売業

～業況はほぼ横ばいも売上額、収益は低下～

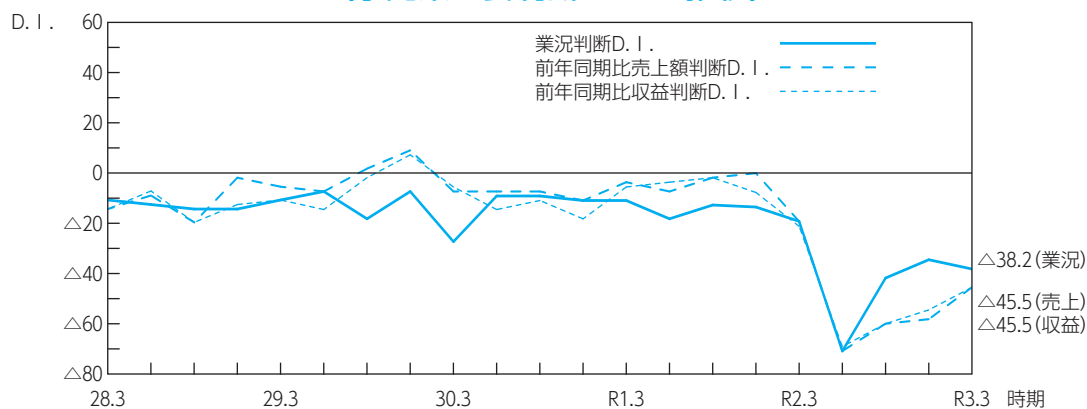
お店の立地地域 割合 (%)	① 駅周辺商店街 23.6	② 住宅地隣接商店街 30.9	③ 団地内商店街 0.0	④ その他 43.6
-------------------	---------------	-----------------	--------------	------------

業況は△38.2（前期比△3.6ポイント）とほぼ横ばい。前回調査時、小売業は業況、売上額、収益等全ての項目で回復傾向であったが、コロナ禍が一時的に落ち着いていたことと年末の季節要因があった反動からか、今回、売上額△27.3（前期比△10.9ポイント）、収益△23.6（前期比△5.5ポイント）、その他項目も軒並み低下した。来期予想業況も△30.9と厳しい状況が続くものと予想している。

## 〈主要判断D.I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年 同期実績
イ 業 況		-19.2	-34.5	-38.2	-3.6	-30.9	-19.0
ロ 売上・収益・ 価格の動き	売上額	-21.2	-16.4	-27.3	-10.9	-12.7	-6.1
	収 益	-19.2	-18.2	-23.6	-5.5	-16.4	-4.4
	販売価格	3.8	3.6	-3.6	-7.3	-3.6	-7.5
	仕入価格	7.7	1.8	1.8	0.0	5.5	-5.9
	在 庫	-1.9	0.0	-1.8	-1.8	-1.8	0.1
	資金繰り	-5.8	-9.1	-18.2	-9.1	-18.2	-12.4
ハ 昨年同時期と の比較	売上額	-19.2	-58.2	-45.5	12.7		-26.2
	収 益	-21.2	-54.5	-45.5	9.1		-24.3
	販売価格	-3.8	-3.6	-7.3	-3.6		-3.4
ニ 雇用面の動き	残業時間	-1.9	-10.9	-5.5	5.5	1.8	-3.5
	人 手	-26.9	-3.6	-16.4	-12.7	-14.5	10.6

## 〈小売業主要判断D.I.の推移〉



## サービス業

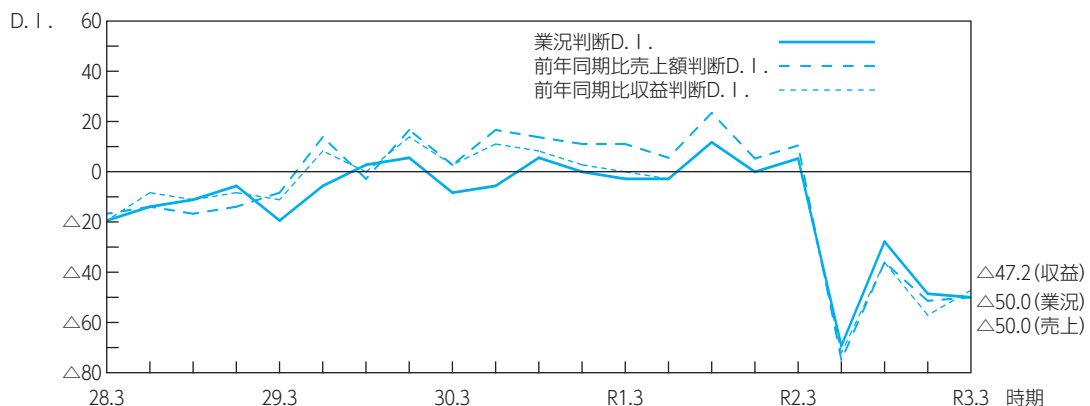
### ～業況低水準で横ばい、売上額、収益は大幅下降～

業況は△50.0（前期比△1.4ポイント）と前期比横ばいながら全業種で最も低い。前回調査時期にコロナ禍が一時的に落ち着いていたことと年末の季節要因があった反動からか、今回、売上額△36.1（前期比△47.5ポイント）、収益△30.6（前期比△39.1ポイント）、料金価格△8.3（前期比△16.9ポイント）、資金繰りも△30.6（前期比△7.7ポイント）と低下。来期予想業況は、緊急事態宣言の解除、ワクチン接種が高齢者対象に開始される見通しなど、明るいニュースもあり、△27.8（今期比+22.2ポイント）と改善予想も厳しい見通しは続く。

### 〈主要判断D. I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年同期実績
イ 業 況		5.3	-48.6	-50.0	-1.4	-27.8	-55.3
ロ 売上・収益・価格の動き	売上額	-5.3	11.4	-36.1	-47.5	-5.6	-30.8
	収 益	-5.3	8.6	-30.6	-39.1	-11.1	-25.3
	料金価格	5.3	8.6	-8.3	-16.9	-2.8	-13.6
	材料価格	5.3	0.0	2.8	2.8	-2.8	-2.5
	資金繰り	-15.8	-22.9	-30.6	-7.7	-8.3	-14.8
ハ 昨年同時期との比較	売上額	10.5	-51.4	-50.0	1.4		-60.5
	収 益	5.3	-57.1	-47.2	9.9		-52.5
ニ 雇用面の動き	残業時間	-5.3	-2.9	-13.9	-11.0	-8.3	-8.6
	人 手	-15.8	-11.4	-8.3	3.1	-11.1	7.5

### 〈サービス業主要判断D. I.の推移〉



# 建設業

～業況改善、売上額、収益など改善する。人手は依然不足～

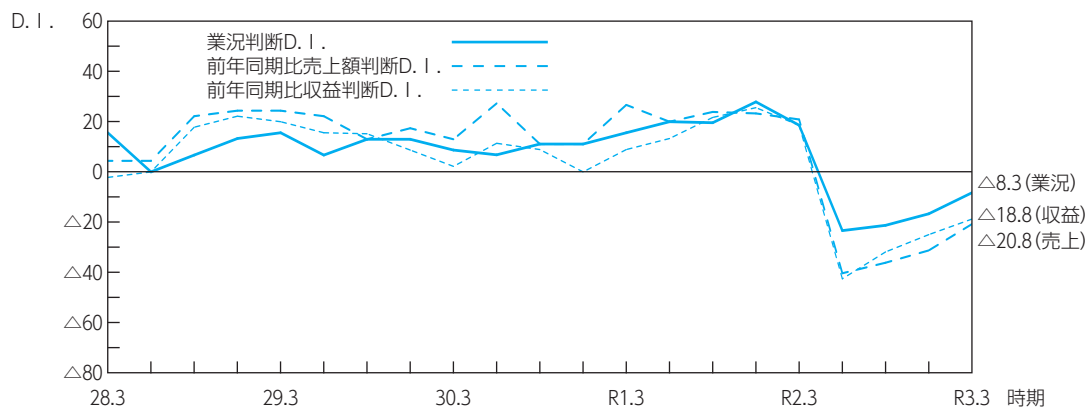
販売納入先 割合 (%)	①官公庁 35.4	②大企業 8.3	③中小企業 35.4	④個人 20.8
-----------------	-----------	----------	------------	----------

業況は△8.3（前期比+8.3ポイント）と改善。売上額△4.2（前期比+10.4ポイント）、受注残△2.1（前期比+14.6ポイント）、施工高2.1（前期比+18.8ポイント）、収益△2.1（前期比+4.2）など多くの項目が改善した。雇用面の動きでは、人手が△37.5（前期比+8.3ポイント）と緩和するも依然不足が続く。

## 〈主要判断D.I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年 同期実績
イ 業 況		18.6	-16.7	-8.3	8.3	-18.8	-26.9
ロ 売上・収益・ 価格の動き	売上額	7.0	-14.6	-4.2	10.4	-22.9	-11.1
	受注残	2.3	-16.7	-2.1	14.6	-20.8	-4.4
	施工高	4.7	-16.7	2.1	18.8	-14.6	-2.6
	収 益	4.7	-6.3	-2.1	4.2	-18.8	-6.7
	請負価格	4.7	-6.3	-4.2	2.1	-4.2	-8.8
	材料価格	16.3	0.0	4.2	4.2	2.1	-12.1
	在 庫	-7.0	-2.1	-4.2	-2.1	-4.2	2.8
	資金繰り	-7.0	-4.2	-8.3	-4.2	-10.4	-1.4
ハ 昨年同時期と の比較	売上額	20.9	-31.3	-20.8	10.4		-41.8
	収 益	18.6	-25.0	-18.8	6.3		-37.4
ニ 雇用面の動き	残業時間	14.0	-10.4	-14.6	-4.2	-12.5	-28.5
	人 手	-51.2	-45.8	-37.5	8.3	-35.4	13.7

## 〈建設業主要判断D.I.の推移〉



## 不動産業

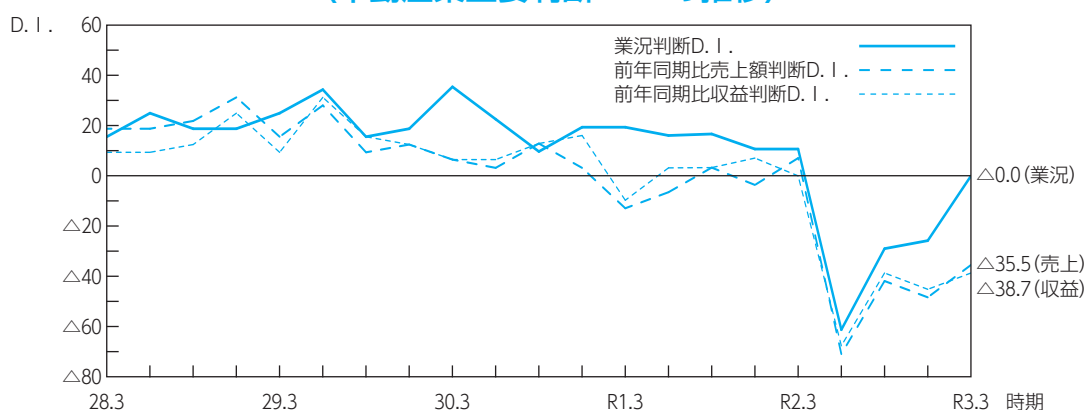
### ～業況を始め、各項目前期より改善～

業況は、0.0（前期比+25.8ポイント）と改善。売上額△9.7（前期比+16.1ポイント）、収益△9.7（前期比+25.8ポイント）、販売価格3.2（前期比+6.5ポイント）と多くの項目が改善した。前期との比較では改善しているものの、対前年同期との比較では低下が続く。来期業況予想は、春の人口移動のピークは過ぎ、売上額など低下するとの見通しから△3.2と低下予想。

### 〈主要判断D.I.〉

		前年同期	前 期	今 期	今期-前期	来期予想	対前年同期実績
イ 業 況		10.7	-25.8	0.0	25.8	-3.2	-10.7
ロ 売上・収益・価格の動き	売上額	14.3	-25.8	-9.7	16.1	-22.6	-24.0
	収 益	3.6	-35.5	-9.7	25.8	-22.6	-13.2
	販売価格	3.6	-3.2	3.2	6.5	3.2	-0.3
	仕入価格	17.9	3.2	0.0	-3.2	0.0	-17.9
	在 庫	-7.1	3.2	12.9	9.7	9.7	20.0
	資金繰り	7.1	-6.5	0.0	6.5	-3.2	-7.1
ハ 昨年同時期の比較	売上額	7.1	-48.4	-35.5	12.9		-42.6
	収 益	0.0	-45.2	-38.7	6.5		-38.7
ニ 雇用面の動き	残業時間	-3.6	-19.4	-16.1	3.2	-12.9	-12.6
	人 手	-17.9	-6.5	0.0	6.5	0.0	17.9

### 〈不動産業主要判断D.I.の推移〉



### 調査員のコメントから

**小 売 業** ▶ 現在コロナの影響は少ないが職員が感染すると経営危機となるため徹底した対策が行われている。



## 特別調査 「新型コロナ感染拡大長期化の影響と新常态(ニューノーマル)への対応について」

「貴社における今期（1～3月）の売上は、新型コロナウイルスの影響がなかった例年の1～3月期と比較して、どの程度変化しましたか。1～8の中からお答えください。」については、「10%以上30%未満の減少（34.1%）」が最も多く、以下「ほぼ変化なし（10%未満の増減）（31.0%）」「10%以上30%未満の増加（11.1%）」「30%以上50%未満の減少（10.5%）」「50%以上70%未満の減少（7.3%）」「70%以上90%未満の減少（4.2%）」「90%以上の減少（1.5%）」と続きました。

次に、「経済社会全体が新常态（ニューノーマル）へ移行していくなかで、貴社では、事業継続上の不安、心配、懸念はありますか。1～9の中から最大3つまでお答えください。」については、「先行き不透明による計画策定困難化（32.9%）」が最も多く、以下「既存事業の需要減少（25.8%）」「感染拡大防止対策の負荷増大（22.6%）」「雇用の確保、維持、継続（18.7%）」「取引先の経営不安定化（16.8%）」「不安、心配、懸念はない（14.9%）」「デジタル化、オンライン化への対応の遅れ（11.4%）」「事業構造転換の必要性増大（6.7%）」「事業承継問題への悪影響（3.4%）」「その他（0.8%）」と続きました。

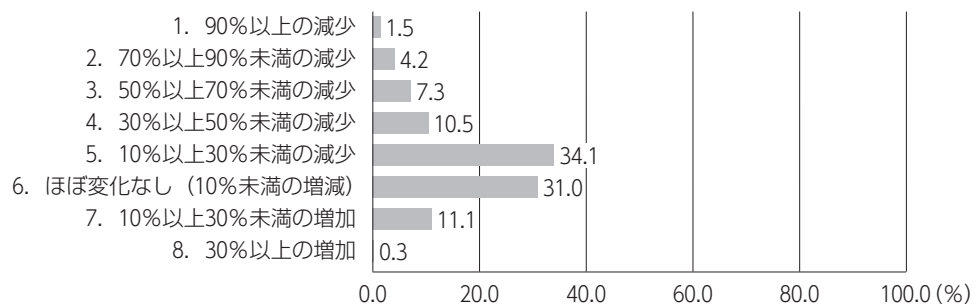
その次に、「新常态（ニューノーマル）へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況にあります。貴社のIT人材はどのような状況ですか。また、貴社でのIT活用はどのような効果を挙げていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。」については、1～5の中では、「IT人材の必要性を感じていない（54.6%）」が最も多く、以下「足りていない〔内部育成で対応〕（19.6%）」「足りていない〔外部業者に委託で対応〕（13.3%）」「足りている（10.1%）」「足りていない〔外部人材採用で対応〕（2.4%）」と続きました。6～0の中では「IT活用には取り組んでいない（60.2%）」が最も多く、以下「効率化による経費節減（20.8%）」「顧客利便性の向上（8.3%）」「売上の上昇（6.7%）」「ITの活用に取り組んだが効果が出ていない（4.0%）」と続きました。

その次に、「貴社では、新常态（ニューノーマル）へ向けて、どのような設備投資の意向がありますか。また、足下のコロナ禍は設備投資のスケジュールに影響を及ぼしていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。」については、1～5の中では「設備投資の意向はない（67.8%）」が最も多く、以下「老朽化設備等の更新（10.7%）」「生産・販売能力増強」「合理化・省力化・IT化（同8.7%）」「新製品・新サービス進出対応（4.1%）」と続きました。6～0の中では「当初から予定はなく、設備投資はしない（71.3%）」が最も多く、以下「当初予定通り実施（10.5%）」「計画を後ろ倒しして実施（8.2%）」「予定はあったが、中止・凍結した（5.0%）」「当初予定はなかったが補助金等の活用により実施（4.7%）」と続きました。

最後に、「貴社では、今後どのような事業展開を実施・検討することが想定されますか。該当するものを以下の1～9の中から最大3つまでお答えください。」については、「本業の国内取引先深耕〔生産・販売・調達等〕（40.4%）」が最も多く、以下「特になし（35.1%）」「本業での新商品・サービスの展開（24.4%）」「新規事業への参入〔多角化〕（8.6%）」「M&Aの活用（5.8%）」「副業〔既存の別事業〕の拡大（3.9%）」「本業の縮小（2.7%）」「本業の海外展開〔生産・販売・調達等〕（2.1%）」「業種転換（1.3%）」「副業〔既存の別事業〕の縮小（0.6%）」と続きました。

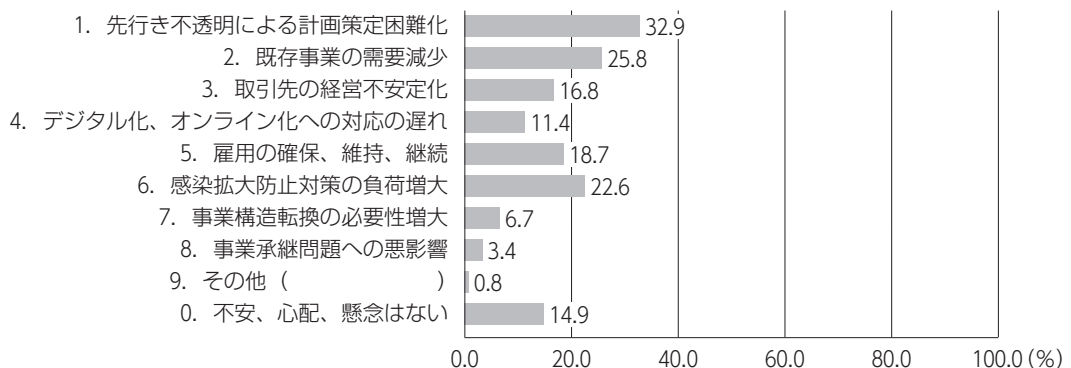
Q1

貴社における今期（1～3月）の売上は、新型コロナウイルスの影響がなかった例年の1～3月と比較して、どの程度変化しましたか。次の1～8の中からお答えください。



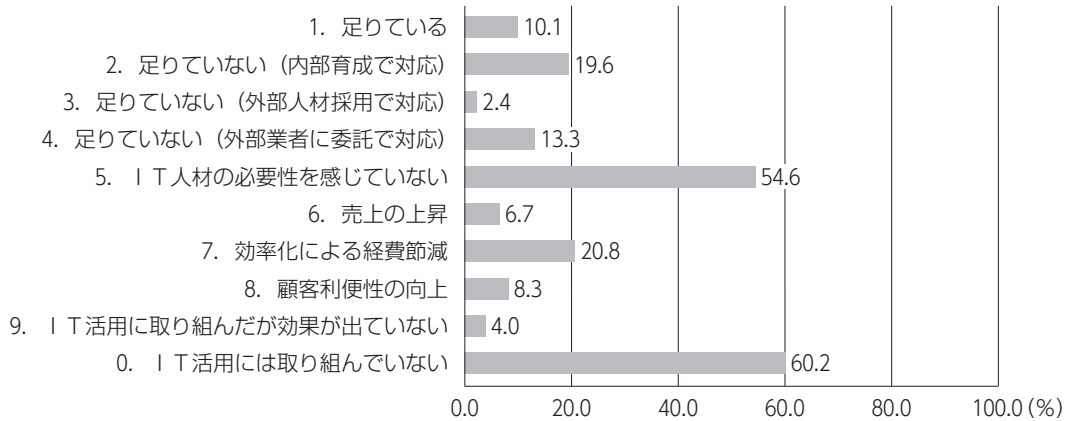
Q2

経済社会全体が新常态（ニューノーマル）へ移行していくなかで、貴社では、事業継続上の不安、心配、懸念はありますか。1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。なお、不安、心配、懸念のない方は0とお答えください。



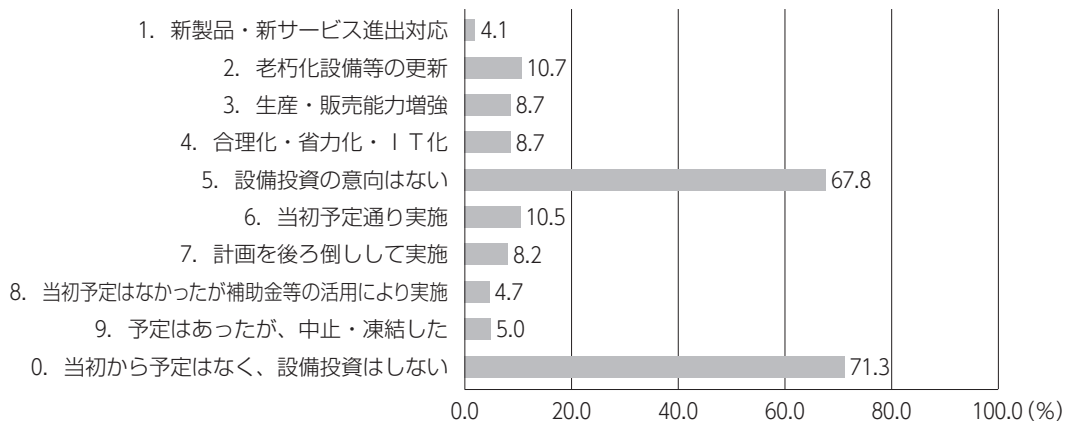
Q3

新常態（ニューノーマル）へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況にあります。貴社のIT人材はどのような状況ですか。また、貴社でのIT活用はどのような効果を挙げていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。



Q4

貴社では、新常態（ニューノーマル）へ向けて、どのような設備投資の意向がありますか。また、足下のコロナ禍は設備投資のスケジュールに影響を及ぼしていますか。最もあてはまるものを、それぞれ1～5、6～0の中から1つずつ選んでお答えください。



Q5

貴社では、今後どのような事業展開を実施・検討することが想定されますか。該当するものを以下の1～9より最大3つまでお答え下さい。なお、特にないという方は0を選択下さい。

